

# 感染症一覽

学校保健安全法の施行規則で決められている学校感染症の出席停止期間の基準と学校感染症の分類

分類	感染症名	症状	登園のめやす
2	新型コロナウイルス感染症	のどの痛み・咳・鼻水・熱・倦怠感・味覚、嗅覚障害など	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで
2	麻疹 (はしか)	風邪症状から始まり、高熱・赤みの強い発疹	解熱した後3日を経過するまで
2	インフルエンザ	突然の高熱・倦怠感・関節／筋肉痛	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
2	風しん(3日はしか)	発熱・発疹・リンパ節腫脹	発疹が消失するまで
2	水痘(みずぼうそう)	体幹から全身にかけて発疹・発疹が水疱になる	すべての発疹が痂皮化するまで
2	流行性耳下腺炎 (ムンプス、おたふくかぜ)	発熱・片側ないし両側唾液腺の腫脹(痛みをとまなう)	耳下・顎下・舌下腺の腫脹が出現から5日を経過、かつ全身状態が良好になるまで
2	結核		医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで
2	咽頭結膜炎 (プール熱)	39℃前後の発熱・咽頭炎・結膜炎・眼脂	主な症状(発熱、咽頭発赤、眼の充血)が消失後、2日を経過するまで
3	流行性角結膜炎 (はやり目)	流涙・結膜充血・眼脂・耳前リンパ節の腫脹と圧痛	医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで(結膜炎の症状が消失)
2	百日咳	風邪症状からはじまり、特有な咳発作(コンコンと咳こむ)	特有な咳が消失、または5日間の抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
3	腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	激しい腹痛・頻回の水様便・血便	症状がおさまり、かつ抗菌薬治療を終了、48時間あけて連続2回の検便で陰性
3	急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血	医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで
3	溶連菌感染症	発熱・咽頭痛・かゆみのある発疹	抗菌薬内服後24～48時間経過していること ※ただし、治療の継続は必要
3	マイコプラズマ肺炎	咳(3-4週持続する場合あり)・発熱・頭痛などのかぜ症状	発熱や激しい咳が治まっていること(症状が改善し全身状態が良い)
3	手足口病	水疱性の発疹が口腔粘膜や四肢(手のひら、足底、足背)に現れる	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること
3	伝染性紅斑(リンゴ病)	軽い風邪症状のあと頬が赤くなったり手足に網目上の紅斑が出現	全身状態が良い
3	感染性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	嘔気／嘔吐・下痢・発熱※ロタウイルスの場合、白色調であることが多い	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること
3	ヘルパンギーナ	突然の高熱・咽頭痛・口のなかに水疱疹や潰瘍	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること
	RSウイルス感染症	発熱・鼻汁・咳・呼吸困難 ※乳幼児の場合、重症化する場合がある	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと
	帯状疱疹	小水疱(片側にだけ現れる)・かゆみ	すべての発疹が痂皮化するまで
	突発性発疹	38℃以上の高熱・解熱とともにあらわれる発疹	解熱後1日以上経過し、全身状態が良いこと
	A型肝炎	急激な発熱・全身倦怠感・食欲不振・悪心・嘔吐ではじまり黄疸がみられる	肝機能が正常であること
	B型肝炎	急性肝炎の場合 全身倦怠感・発熱・食欲不振・黄疸など	症状が消失し、全身状態が良いこと
<p>≪登園する際に注意が必要な感染症≫※治療等により、治癒した際には医師による証明書の提出をお願いします。</p>			
	単純ヘルペス感染症	歯肉口内炎・口周囲の水疱・口のなかの痛み	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること
3	伝染性膿痂疹 (とびひ)	湿疹や虫刺され痕を掻いた部分のびらん、水疱・かゆみ ※ <b>治癒するまで水あそび・プールは禁止</b>	皮疹が乾燥しているか、浸潤部がガーゼ等で覆うことができる程度のもの
3	アタマジラミ	頭皮のかゆみ ※頭髪のなかに虫または卵を確認	駆除を開始していること
3	伝染性軟属腫 (ミズイボ)	直径1～3mmの半球状の丘疹 ※ <b>治癒するまで水あそび・プールは禁止</b> ※自然治癒もあるが、数ヶ月かかる場合があります	掻きこわし傷から滲出液が出ているときにガーゼ等で覆うこと